

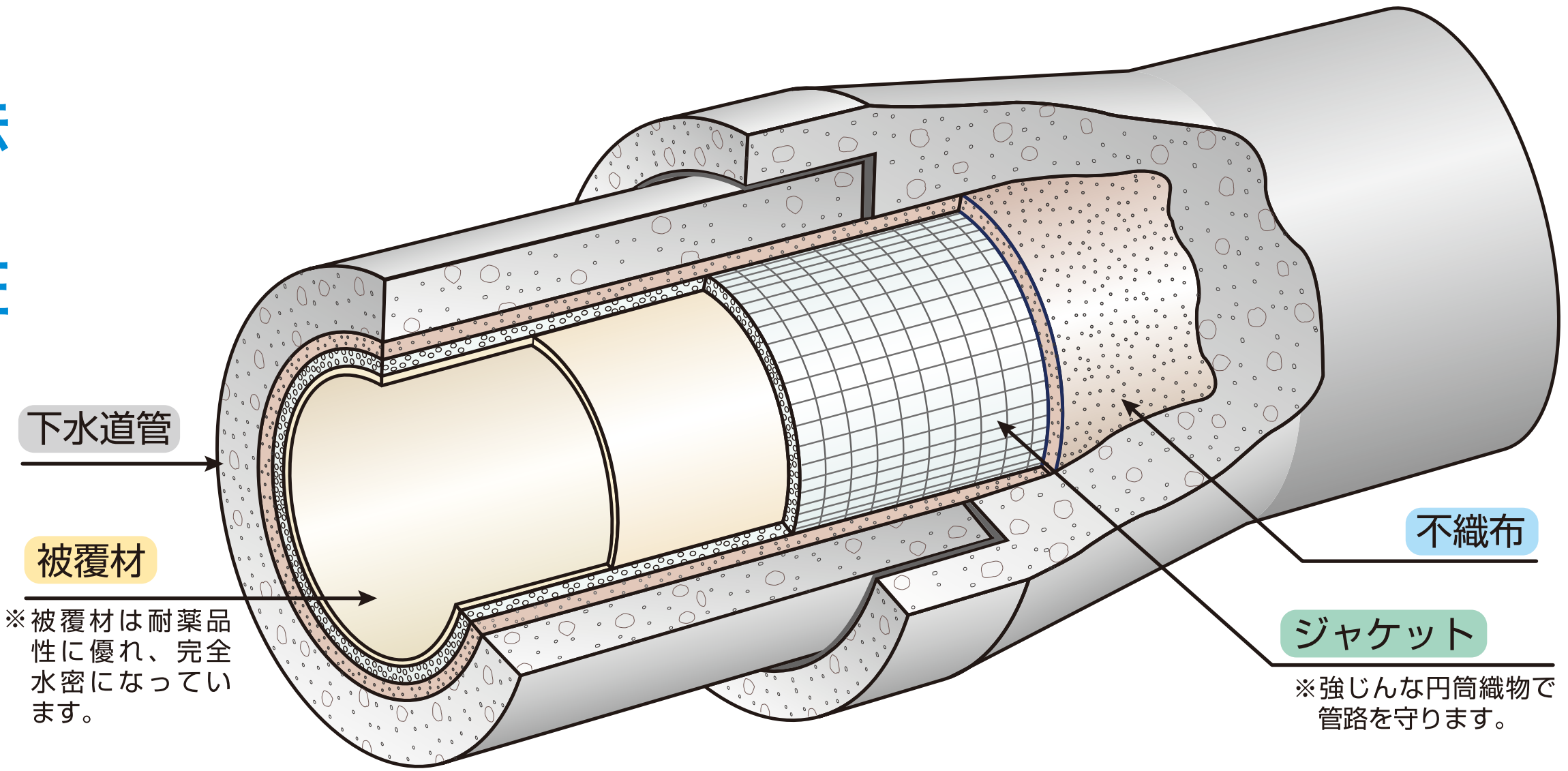


反転工法の

# ホースライニング工法

ホースライニング工法は、熱硬化性樹脂を含浸させた更生材料(シールホース)を既設のマンホールから既設の管きよ内に加圧させながら反転挿入し、管きよ内で加圧状態のまま熱硬化性樹脂を加熱硬化させることで、管きよの内面に新しいパイプをつくる反転工法です。

- 日本が生み育てた管きよ更生工法
- 管きよの補強と耐震性の向上
- 耐久性・耐震性を被害調査で実証
- あらゆる管きよに施工が可能
- 優れた性能と安定した品質
- 交通障害を最小限に抑え、迅速かつ確実な施工
- 『管きよ更生工法における設計・施工管理ガイドライン』に沿った設計が可能

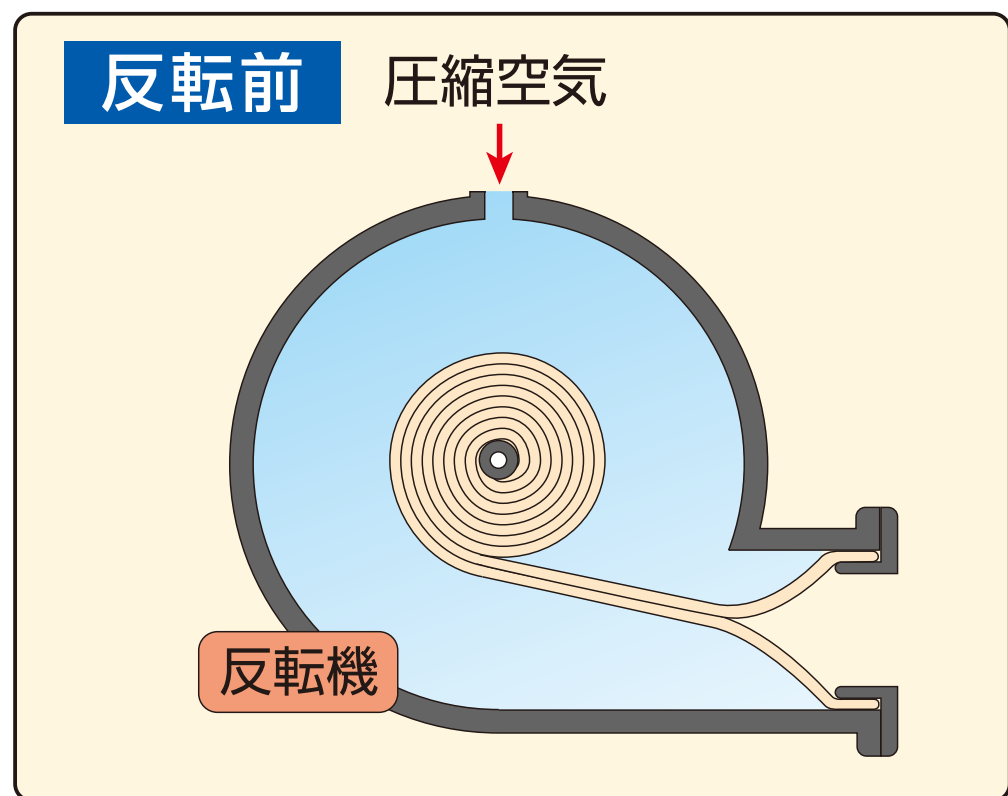


適用管種 鉄筋コンクリート管、陶管など  
 適用口径  $\phi 150 \sim 1,000 \text{mm}$   
 (最大施工実績 $\phi 1,500 \text{mm}$ )  
 施工延長 150m

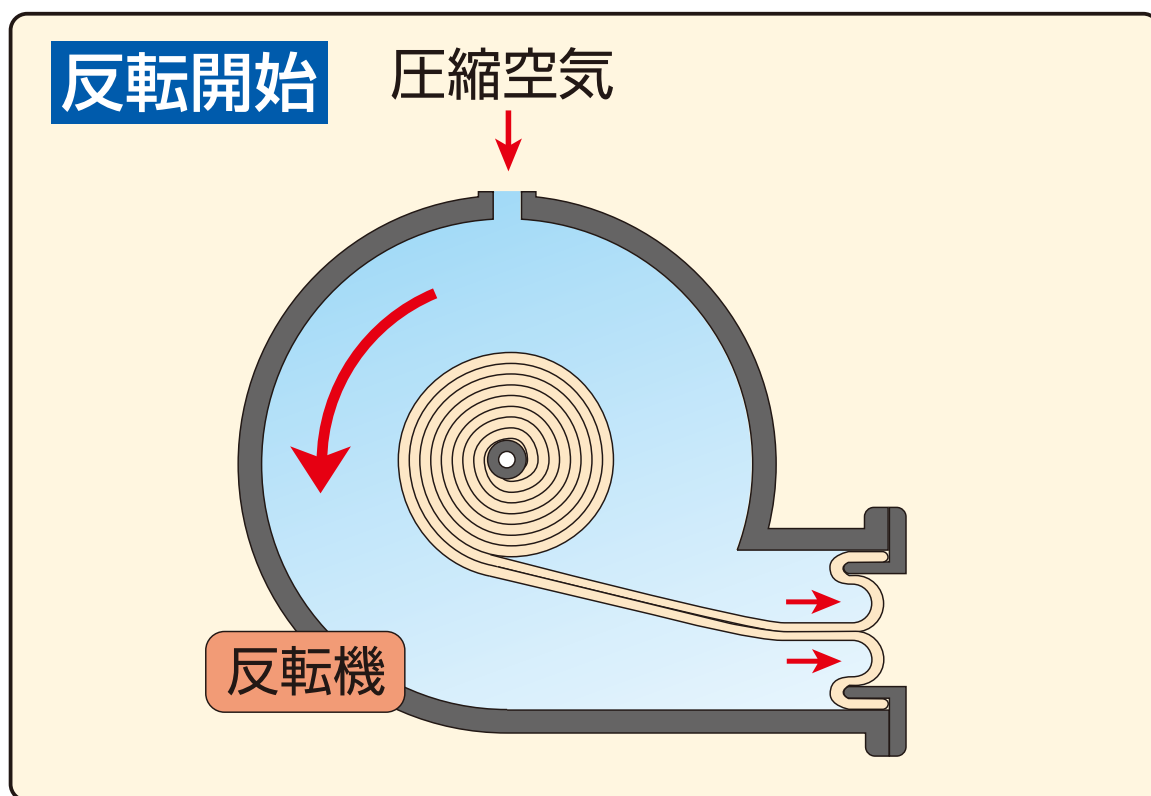


## 反転の原理

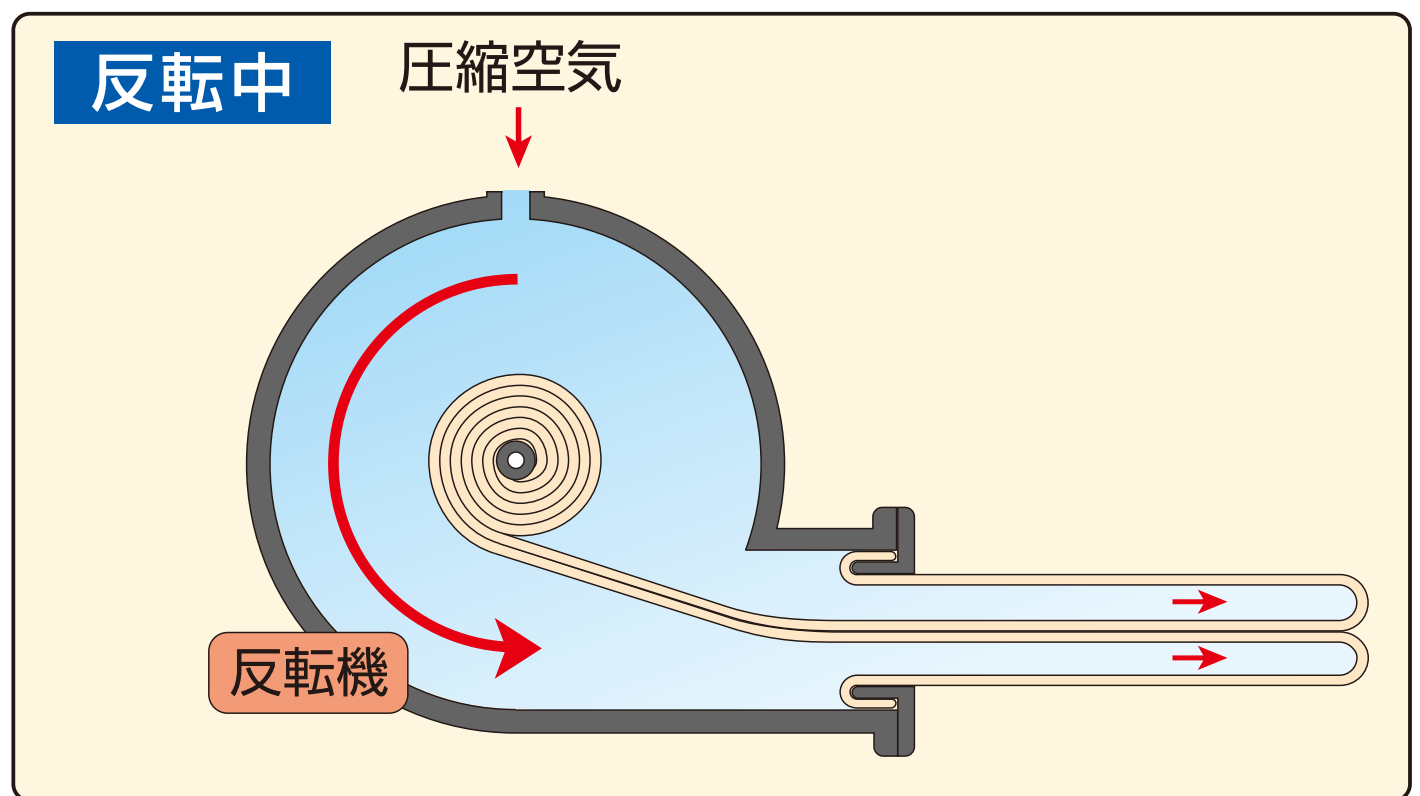
反転機に圧縮空気を供給し、シールホースを加圧反転させることにより、シールホースが裏替り、パイプの内面になり平滑なシールパイプを形成します。



シールホースの先端が加圧され、反転しようとしています。



加圧を続けることにより、シールホースは反転しながら前方へと進むことになります。



シールホースとパイプラインは摩擦が生じることなく、施工延長が長くても反転挿入することができます。

